

【達成度】
A:ほぼ達成できた
B:概ね達成できた
C:やや不十分である
D:不十分である

1 学校教育目標 夢を持ち、豊かに生きる生徒の育成 ～ コミュニティ・スクールを通して ～	2 本年度の重点目標 ①コミュニティ・スクールの推進を通して、社会性・協調性・人間性の育成を図る。 ②「分かる授業」に取り組み、学力の定着を図る。 ③道徳の時間等の充実を図り、豊かな人間性の醸成を図る。
--	---

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む。

3 目標・評価									
①コミュニティ・スクールの推進を通して、社会性・協調性・人間性の育成を図る。									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○コミュニティ・スクールの推進	保護者の家庭学習への協力	「家庭学習に目を通してほめ励ますことができた」のアンケート「項目で60％を目指す。	日常の家庭学習の取組に関心を持ってもらう。特に、テスト前は、計画表に目を通して生徒の頑張りを認め励ましてもらうよう依頼する。また、学活ノートにも目を通し、生徒と担任の関わりにも関心を持ってもらう。	CS推進	猿本	A	家庭生活アンケートの「宿題をよくする・大体する」と答えた保護者は95％だが、「自主学習をよくする・大体する」と答えた保護者は37％であった。生徒の家庭学習に取り組む姿には、ほとんどの保護者が感心をもってもらうことができた。成績の記録を通して、担任と関わりをもったり、生徒を励ますことができた保護者は90％であった。	生徒のテスト結果だけに着目して励ましてもらうだけでなく、平常の家庭学習の姿を見て励ましてもらう。また、学級通信やPTA行事の機会を捉えて、保護者に関心と関わりをもってもらうように周知する。
		あいさつの励行	地域や家庭であいさつが以前よりできるようになったの項目で70％を目指す。	「いつでも」「どこでも」「だれにでも」できるように教師が進んで取り組む。学校だより等で保護者へ協力を依頼し、「おはよう」「はい」「ありがとう」「いってらっしゃい」「おかえりなさい」「いただきます」「おやすみ」が普段から言えるようにする。	生徒指導	北島	B	家庭で家の人にあいさつができていると思う生徒は89％、地域の人に自分からあいさつができていると思う生徒は86％であった。保護者アンケートで、子どもが家の中であいさつをするなど答えたのは80％である。大きな声で、笑顔で、先にできる生徒を目指していきたい。	「いつでも」「どこでも」「誰にでも」できるように教師がすすんで取り組む。授業前後のあいさつ、歌など、全ての声を出す機会を意識して取り組む。
		自力登校	晴天の日は、100％を目指す。雨天の日は、30％を目指す。	学校だよりやPTA総会等で、「白石町を目指す4つの重要項目」を周知し、自分の力で登校するよう家庭との連携を図る。	生徒指導	北島	B	自力登校ができる、と思う「やや思う」の合計は、生徒は87％、保護者は100％である。保護者アンケートの記入に「どんなに雨風が強くても、カッパを着て登校しました。これは当たり前なんですが、びっくりしました。やればできる！でした」とあった。	学校だよりやPTA総会等で、「白石町を目指す4つの重要項目」を周知し、自分の力で登校するよう家庭との連携を図る。
		地域行事への参加	地域行事に中学生が活躍していた項目で70％以上を目指す。	福富地区の運動会や公民館清掃など地域行事に参加し、活躍できる場を設定する。	PTA	教頭	B	・福富地区町民体育大会に、すべての生徒が参加し、約80％の生徒が役員の補助を行う予定だったが、台風のため今年度は中止になった。地区の公民館清掃を小中学生と合同に実施し、地域貢献活動を行った。	・地域行事と教育課程との関連を図り、年間計画に位置付け、共通理解の基、生徒に様々な力を培っていく。また、学校運営協議会との連携を深める。
学校運営		情報の発信	配信メール、ケーブルTV、ホームページ、学校だより等で月1回以上の情報発信を行う。	PDCAサイクルによる事業評価表を改善し、効果的事業推進のシステム確立する。	PTA	教頭	A	・配信メール、ケーブルテレビ、ホームページ等で学校行事などの情報発信を行い有効に活用することができた。配信メールについて保護者アンケートでは、95.2％が有効であると答えている。	・学校運営協議会の委員にも配信メールに登録してもらい、情報発信を行う。
		学校行事への参加を促進	学校行事への保護者等の参加率50％を目指す。	コミュニティ・スクールを推進・充実するための取組を、これまでの行事と運動させながら企画・運営する。体育大会や文化発表会で、地域の方の参加種目を設定する。	PTA	教頭	B	・体育大会や文化発表会への参加率は、平均して約70％だった。授業参観出席率は1～3学年で約40％程度であった。保護者アンケートでは、56.3％が参加しているとの回答である。	・引き続き、学校運営協議会やPTAとの連携を推進し、行事と運動させながら企画・運営する。

②「分かる授業」に取り組み、学力の定着を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	ICT機器を活用した授業づくり	ICT機器を活用した授業をすべての教科で実践する。特に、デジタル教科書を活用した授業の実施率60％を目指す。	タブレット端末を有効に活用した授業方法についての講習会を行い、各教科でICT機器を活用しやすい環境を整備する。	情報教育	森智	B	・多くの先生方にタブレット教科書を利用した授業実践を行っていただけている。特に今年度は道徳のデジタル教科書が入ったため、円滑に授業ができた。一方で、タブレット端末の活用については十分でないため、今後改善の必要がある。	・タブレット端末を活用した授業実践例を提示する。 ・校内研などで、タブレットを活用した公開授業を行う。
	●学力向上	指導方法の改善	「授業内容が分かった」と答える生徒の割合90％以上を目指す。	西部型授業を基盤とした福富型授業に全教科で取り組む。100％の実施を目指す。生徒による「授業アンケート」を実施する。	校内研究	菰田	A	・すべての教科で生徒主体の活動が含まれている福富型授業を実践している。 ・生徒による授業アンケートで、「授業内容が分かった」と答えた生徒の割合は、約90％であった。 ・指導方法改善の加配教員を中心に授業改善を進め、TT及び少人数授業を実践し、国語・数学・理科・英語において37時間の増加時数を行った（英語科中1TTによる時数8時間を含む）。 ・佐賀大学より講師を招聘し、「深い学び」についての講話を聞き、演習をおこない、新学習指導要領への理解を深めることができた。 ・9月には新学習指導要領の視点に立った授業研究会を実施し、さらに研鑽を高めた。	・新学習指導要領を見据えた取組を全教科で実施し、「主体的・対話的な深い学び」を促す授業形態、指導方法の工夫を行っていく。 ・新学習指導要領に基づく評価について情報を集め、2年後の新学習指導要領の本格実施に備える。 ・英語科、数学科を中心に、全学級でTT授業、または少人数授業を行う。 ・生徒の「主体的・対話的な深い学び」を作り出すために、今後もこれまでの研究課題であるICT利活用と学び合いを継続して研究していく。
		職員研修の活性化	教員の実践的指導力の向上を図る。新学習指導要領の全面实施に向けた取り組みを行う。	英語科、数学科を中心に、全学級でTT授業または少人数授業を実施する。	校内研究	菰田			
	●志を高める教育	プレテストの実施	プレテストの出題範囲の早期提示、プレテスト後の学習会での細やかな指導により、基礎・基本の定着と生徒の学習への意欲向上および目標の実現に向けて努力する気持ちを高めることを目指す。	基礎・基本の定着と学習意欲の向上のため、年4回の定期テストにおいてプレテストを実施する。その後定着のための学習会を行う。	校内研究	菰田	A	・年4回の定期テストにおいて、テスト範囲の早期提示、プレテストや補充学習を計画的におこなうことができた。このことにより、生徒も見通しを持って学習に取り組むことができた。プレテストで不合格だった生徒にも、再テストで合格することを目指し努力する姿が見られた。	・プレテストや補充学習会などの機会を捉え、教師が生徒に積極的に関わることで、生徒のやる気を引き出すように努める。

③道徳の時間等の充実を図り、豊かな人間性の醸成を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	道徳教育の推進	アンケートで「人の気持ちが分かる」等の思いやりの項目80％以上を目指す。	全職員で道徳科の授業を実施し、複数の視点による授業展開を行うとともに、生徒理解を深める。	道徳・心の教育	森智	A	・すべての先生方に道徳の授業実践をしていただいたため、担任の負担軽減につながった。また、生徒たちの意欲も上がり、いかなる先生に道徳の授業を行うことに好意的に感じている生徒が90％を超えた。	・ワークシートのまとめ方や評価の仕方に十分検討する時間がなかったため、来年度は年度当初に方向性を示し、年度末ではなく、定期的に評価を行っていく必要がある。
	●いじめ問題への対応	いじめ調査の実施	「学校生活は過ごしやすい」と答えた生徒の割合80％以上を目指す。	月初めの生活アンケート、学期毎のいじめ調査を実施する。いじめの早期発見・早期対応のため、月2回の連絡会を行う。	生徒指導	北島	B	日頃の生活の様子の観察、毎月のアンケートなどで、生徒の様子の把握に努めた。職員朝会、生徒指導部会などで、つねに情報の共有を図り、いじめの防止・早期発見に努めた。学期ごとのアンケートでは、学校生活を楽しくと答えた生徒の割合は、87％である。	いじめの防止、早期発見のためにも、今後もアンケートは続けていきたい。アンケートの内容、実施方法の共通理解については、検討も必要であると思う。生徒の人間関係づくりのための、参加体験型学習などの職員の研修も有効であると思う。
		生徒会との運動	QUアンケートで学校生活満足群65％以上を目指す。	生徒主体による各種集会を開き、いじめ撲滅に向けて主体的な取り組みを促す。	生徒会	藤原	A	全校での「ふれあい給食」や屋外での「3年生へのメッセージ」など、生徒主体の行事を行った。生活アンケートにおいて「学校は楽しいですか？」という質問に対して、87％の生徒が「楽しい」「まあ楽しい」と回答しており、学校満足度の上昇が認められる。	・生徒の自己肯定感を高める行事を行うことで、更に学校満足度を高める。いじめ撲滅に関する集会も、生徒主体で行ってきたい。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	信頼される教職員としての意識の向上	諸会議等で指導し、校内NWでの周知・確認を行う。コンプライアンス意識を強化するとともに、服務規律の堅持100％を目指す。	危機管理マニュアルの見直しと報告・連絡・相談の徹底を行う。職員会議等で指導するだけでなく、長期休業中に外部の人を呼んで服務の研修を実施する。交通事故防止のため、西部教育事務所発行の運転チェックシート等を活用し、普段の運転の状況の確認を行う。	総務	教頭	A	・交通事故防止に努めるために、全職員宣誓書に署名するとともに、携帯用のカードを作成し、財布等に入れ常に携帯するようになった。 ・月1回の「ゼロの日」を実施し、管理職による服務規律の徹底について指導を行った。 ・全職員が服務規律の堅持しることができた。	・1年間、全職員の自覚のもと服務規律を堅持することができた。全職員へ宣誓書に署名するとともに、携帯用のカードを作成し、財布等に入れ常に携帯すること、また、月1回の「ゼロの日」による指導の効果もあったと考えられる。引き続き、来年度も取り組みたい。
		衛生管理の改善、充実	多忙感解消	タイムマネジメントを行うと共に、定時退勤日の確実な実施を行う。副担任による担任への協力や支援を行う。また、事務職員、町雇用職員、非常勤講師等との連携・協力体制を構築する。	総務	教頭	B	・望ましい勤務の在り方について検討し、年2回、年休取得推進日を設定した。 ・部活動休止日を設定し、生徒と向き合える時間の確保に努めた。 ・事務職員、町雇用職員、非常勤講師等との連携・協力体制を構築することができた。	・来年度未向け、学校行事、教育課程の見直しを行い、年間を見等した計画となるよう改善を図っている。 ・定時退勤日を確実に実施するため、引き続き業務改善やタイムマネジメントの意識向上が必要である。また、部活動終了後1時間以内での退勤を推奨する。
		学年・学級経営の充実	学年の協働意識を高め、職務の効率化と生徒への指導の充実を図る。	自発的・積極的な情報交換や協議を行い、共通理解に基づいた協働を推進する。企画委員会を定例化し、管理職が学年の情報を入手し、指導・助言を行う。	総務	教頭	A	・学級担任だけで行動することがないよう、常に共有化を図り、学年で行動できた。 ・企画委員会と学年会議を効果的に設定することにより、職員間の細かな面まで情報共有が可能となった。	・来年度も定期的に実施できるよう、企画委員会や学年会議を時間割に組み込む。
	○学校管理	危機管理体制の確立	職員間での危機管理マニュアルを理解し、適切な判断のもと生徒へ指示を出すことができるよう周知する。	職員会議で危機管理マニュアルの内容を確認し、普段の危機意識の向上を図り、事案発生時の連絡系統を確認する。火災発生による避難訓練・不審者侵入による避難訓練を実施し、全校生徒への的確な指示誘導を確認する。	総務	教頭	A	・危機管理マニュアルの確認、避難訓練等を実施し、意識を高めることができた。 ・生徒の個人情報や、学校管理下の情報の持ち出しについて、全職員で確認を行った。	・教職員の意識向上を図るために、年度当初に危機管理マニュアル、個人情報等の取り扱いについて確認を行う。 ・避難訓練を通して、学校全体での危機意識の向上を図る。
教育活動	●健康・体づくり(保健指導)	毎日の健康観察	欠席や遅刻者の理由を把握し、新たな不登校生の発生0％を目指す。	毎日の健康観察で欠席者・遅刻者の把握、理由の確認をおこない、欠席・遅刻が続く生徒に対しては組織的に対応し、不登校の早期発見・予防に努める。	保健指導	中島	A	・欠席や遅刻が続く生徒に対して、早期に家庭連絡や家庭訪問をして対応し、新たな不登校の発生はなかった。不登校の生徒に対しては支援会議を開いて組織的な支援をおこない、改善に努めた。	・完全不登校生徒を出さないための組織的対応策を再度確認する。医療機関やSC、SSW、SSF等の外部の専門機関と連携を図り、個に応じて対応する。
		感染症等の予防	感染症、熱中症等の発生0％を目指す。	感染症や食中毒の予防。手洗い・うがいの徹底、熱中症指数的の揭示、冷凍庫の整備等を行う。	保健指導	中島	B	・夏季は熱中症対策として、水や経口補水液等を備え、塩分タブレットを各部活動に配布する等の予防に努めたが、部活動や、駅伝練習中に熱中症の症状が出て病院を受診した生徒が数名でた。 ・冬季は手洗いや換気、咳エチケットの指導の徹底、校内の消毒をおこない、インフルエンザ等の感染症の流行拡大を防ぐことができた。	・引き続き、熱中症予防のための指導、環境整備に努めるとともに、熱中症が疑われる生徒が出た場合の応急処置について全教職員で再確認する。
	●健康・体づくり(運動指導)	体づくり運動の推進	体づくり運動推進プランに基づき、柔軟性や筋力の向上を目指す。	保健体育科の授業や体育大会で取り組み、さらに体づくりのための全校で取り組むイベントを開催する。	体育・部活動	碓	A	・毎授業ごとに腕立て伏せ、腹筋運動、二人組での馬跳びや補助倒立などの補強運動を行ったり、全校でのバレーボールのクラスマッチを行うなどして体づくり、体力向上に努めた。	・引き続き、補強運動や体幹トレーニング等を行い、体づくり、体力向上のための取り組みを行う。
		食育の推進	朝食摂取率100％及び給食残菜率0％を目指す。	家庭と連携し、「早寝、早起き、朝ごはん」に積極的に取り組む。全職員で給食の臨場指導を行う。	食育	森真	B	・給食の放送や郷土料理教室などを通し、食事の大切さや、地元食材の豊かさを学んだ。その結果、給食の残菜はほぼ0であった。しかし、朝食摂取率は、決まった生徒が食べていないことがあり、100％とはいかなかった。	・家庭科との連携を図り、朝食の大切さを話す場面を設定する。 ・コミュニティ・スクールの取組の一環として、スポーツ料理、郷土料理教室や農業体験などを継続する。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

・学力向上に関しては、ICT利活用を推進したこと、定期テスト前のプレテスト・学習会を実施したことで、授業への意欲面も含め向上させることができた。この取り組みは改善を加えて次年度へも継続し、生徒の「主体的・対話的な深い学び」と家庭学習の習慣化への取り組みを図りたい。
・「特別の教科道徳」では、同じ学年グループの教員が実践する授業を参観およびT2として入ること、お互いの授業技術や学び合うことができ、相互の授業改善につながった。また、教材研究を十分おこなった上で授業に臨むことができ、生徒の感想として担任以外の教員が道徳の授業をすることについて、良好な感想を持っていた。
また、担任以外の教員が道徳の授業をすることについて、生徒はおおむね良好(98％)な感想を持っており、大きな効果を得ることができ、来年度も継続して実践していきたい。
・生徒指導面では、おおむね適切な対応ができた。本年度は組織的に一貫性のある対応をすること、チームを組んで対応することをめざして取り組んだ。今後も、全職員で協働した取組をしていきたい。
・学校経営面では、教職員の「働き方」に対する意識の改革に努めた。教職員の仕事の効率化や環境整備に努め、負担感なく、意欲的にチームとして学校教育目標の達成に向むことができるようにする。文部科学省が示したガイドラインを基に、「働き方」に対する意識の改革に努める。

●は共通評価項目、○は独自評価項目